

タウンミーティング議事録

1 日 時

平成30年7月8日（日）午前10時から11時30分まで

2 場 所

おおたかの森センター ホール

3 参 加 者

(1) 特別職等

井崎市長、石原副市長、後田教育長、志村上下水道事業管理者

(2) 部 局 長

山田総合政策部長、秋元子ども家庭部長、武田都市計画部長、
石野都市整備部長、鈴木土木部長、前川学校教育部長

(3) 事 務 局（秘書広報課）

中野課長、石川課長補佐、近藤係長、上林主事、金子臨時職員、
三好主任主事（記

4 来場者数

48名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

広報ながれやま5月1日号の市職員募集の記事に「市民の笑顔をつくる」と書かれていますが、市職員全員が目標としていますか？

環境美化推進委員と江戸川クリーン大作戦について「目的が同じ」という職員と「目的が異なる」という職員がおり、担当課の中で認識に相違があります。また、エコセンターに剪定枝を持ち込む時間帯を環境政策課に問い合わせたところ「午後4時15分ではなく5時15分まで」と説明されましたが、事務所に行ったら閉まっていました。

この2点について、課長を出せと申し出たところ、「名前を言わないと出さない」と言います。こちらの名前を言わないと取り次がないのは市職員としておかしいです。

A 市

広報ながれやまや市ホームページに市職員の募集を掲載する際、「市民の“ありがとう”を一緒に作ろう」と呼びかけていますが、これは職員研修として継続して啓発しているところです。

お電話の対応については確認をとりたいと思います。

Q 市民

防犯カメラの設置台数が75台というのは少ない気がします。防犯カメラは、犯罪抑止力が大きいものと思いますが、近隣の自治会でも空き巣が横行していますし、松戸の子どもの事件もありましたので、少なくとも通学路には設置すべきと思います。

防犯カメラの明確な設置基準はあるのでしょうか。また、どの程度の台数を設置しようとしていますか。

A 市

防犯カメラについては、千葉県警と協議をして、千葉県の費用で設置している事情もあり、毎年5台ずつというところですが、他にも同様のご要望をいただいておりますので、さらに増設できるよう検討したいと思います。なお、先週のタウンミーティングにおいて自治会が設置する際の補助金の要望もありましたので、こちらも検討したいと思います。

防犯カメラの効果については見解が分かれており、犯罪の抑止力としては効果が無いという方もいますが、今後も専門家に意見を聞きながら県警に働きかけたいと思います。

多くのカメラを設置して監視社会のようになれば犯人の検挙にも非常に効果があると思いますが、どこまでやるのかという点については、様々なご意見や費用対効果を考えながら慎重に検討したいと思います。

Q 市民

「子どもを産むなら流山」「子どもを育てるなら流山」ということで多くの子供が生まれ育っていますが、つくばエクスプレスは朝の7時から9時前まで大変な混雑です。

当初、人口17万人を超えたら次の手を打つと聞いていましたが、車両を増やす話は進めていますか？

A 市

つくばエクスプレスの開業当初は、混雑率120～130%程度と快適な状況でしたが、利用者の増加に伴い、ピーク時間帯の車両数が16本から20本になり、その後22本になり、再来年には25本に増える予定です。平成29年度の混雑率は165%程度で、開業当初に比べれば混んでいます。首都圏では25番目であり、相対的にはそこまでひどい状況ではありません。

ただし、国の指針では混雑率150%程度に抑えるよう示されているほか、つくばエクスプレスは利用者の増加が著しく、今後、混雑率の悪化が懸念されます。このため、市では、つくばエクスプレスを運営する新都市鉄道（首都圏新都市鉄道株式会社）に対し、8両編成を具体化するよう様々な局面において依頼しています。

今年の6月に発表された新都市鉄道の中期計画において、「8両編成を検討する」という旨が初めて明記されました。事業化に向けて動き出したものと思われそうですが、具体的にいつ実現するのかという話は発表する段階に無いとのことでした。

つくばエクスプレスの乗客数は、年々4～5%増えており、今後は深刻な状況が予想されます。一方、新都市鉄道においては、つくばエ

クスプレス沿線の人口予測に社会問題人口研究所の情報を利用していますが、この情報では今後人口が減ることになっています。このため、各市は自ら人口予測のデータを、使われるか使われなかわかりませんが、新都市鉄道に提供しています。

引き続き沿線自治体と協力しながら、8両編成がいつ実現するのか明らかにしていきたいと思えます。

Q 市民

おおたかの森の生徒が増えて小学校が新設されると聞きました。

今度は中学校が足りなくなるので検討しているということですが、その後の状況を教えてください。

A 市

中学校については、平成34年4月を目途に計画しており、今後、地域の方に向けた説明会を予定しています。

また、現在は用地の確保について地権者と協議中です。現在申し上げられる範囲では、小学校の近隣ということで考えています。

Q 市民

小中学校では大規模校が本当に深刻な問題になっています。

現在、おおたかの森小学校が35学級、流山小学校が32学級という状況です。今後、40、60学級が当たり前の状況となりますが、どのように解消するのですか。

文部科学省は、大規模校の弊害について、ひとりひとりの活躍する場所が無い、異年齢交流が少なくなる、人間関係が希薄になる、きめ細かな指導ができず問題行動が発生しやすいといった点を挙げています。

流山市では、児童ひとりあたりの校舎面積、運動場、プールの使用回数が足りません。また、教職員同士のマネジメントにも支障が生じると聞きます。この問題は、深刻に検討しなければいけません。

先週、シンポジウムを開いたのですが「子供たちの手洗い場が少なく給食のためにおしぼりを持ってきている」とか、「手を洗うのに行列になっている」という話を聞きました。下校中も道路にあぶれて危

ない。校庭の利用が表になっていて毎日遊べない、図書館は1週間に1回という状況です。さらに、小山小学校の運動会は教室のテレビモニタで見ていると聞きます。小学校が豊かに元気に育つ環境ではありません。

平成3年に市の教育委員会が作成した資料では、18～24学級が適当であるとされており、1学年4学級の小学校5校、中学校3校、さらに児童館やプールも作りましょうという見取り図がありました。それが実際には実行されていません。現在、5つの学校がマンモス化しており、小学校5校、中学校3校を作ればいいのに、それを実行していない弊害が大きな問題となっており、保護者の中では不満と不信がいっぱいになっています、それをどう解消するかという点を前向きに考えていってもらわないといけません。

A 市

貴重なご指摘を賜りありがとうございます。

平成3年の資料について、当時の目的は、将来の学校に対応することでしたが、20年も前のものです。現在、ご指摘いただいたひとつひとつを私たちは検討していますし、対応対策を重ねて、子どもたちにできる限り良い教育環境を提供できるようにして、将来、子どもたちが自己実現として力を発揮できるように、しっかり対応していきたいと思います。

なお、小山小学校の運動会については、保護者から「暑い中でずっと待っているのか」という意見もあり、エアコンの効いている部屋を案内した経緯があります。全てが「スペースが狭いから」という理由ではありませんので誤解の無いようお願いいたします。登下校中の交通安全については、下校時間をずらす等の対応を徹底していきたいと考えます。

Q 市民

今回、新しく小学校ができると、地域の自治会からは4つの小学校に通う児童がでてきます。また、流山おおたかの森駅の北口の児童は学校まで非常に距離があるので少し考えていただきたい。

東初石5丁目の児童は八木北小学校区へ行くと聞きましたが、八木

北小学校は集団登校しておらず、区画整理が完了していない中、一般道を通学することになります。また、小学校の西門周辺は歩道も無く一般車が自由に通るため、通学時間帯は進入禁止にできないかとお願ひしましたが、柏市の市道であり非常に難しいと言われました。

東初石5丁目と八木北小学校は非常に距離が離れているので、新設小学校へ行くほうが近く、歩道も広くて、安全なところもあります。自治会内が4つの小学校に分かれる件について保護者から質問がきており、自治会のまとまりが無くなるのではという話もありました。市の考えを教えてください。

A 市

通学路の検討は、100%完全だとは思っていません。今後も自治会の皆さまにご協力いただきながら、地域のコミュニティが保てるよう考えていく必要があると思います。

安全面について、道の細いところは安全が保たれるように整備等を進めていければと考えます。

区画整理事業を行うと、街の規模が変わり、児童数が変わり、学校に必要な面積も変わり、全く新しい街ができます。これは常に変わり続けますので、ひとつの学校だけをマンモス化するわけにはいかず、学校の新設や増設を行う中で、自治会の中に複数の学区が生まれてしまうのはある程度やむを得ないものと考えています。自治会には大変なご苦勞があると思いますが、ご理解いただきたいと思います。

八木北小学校の新しい正門は、美田団地側から歩道のある広い道路を通るため、今までよりは安全な通学路になると思います。縁辺部の通学路は、個々に危険箇所を確認して安全対策を実施しますので、またいつでも情報提供いただければと思います。

Q 市民

平成25年にハザードマップが改定され、神戸・淡路大震災と同等のマグニチュード7.3の地震が発生した場合の被害を想定されたと聞いています。その中で、災害発生時の電気やガスを他の地域からカバーする形になっていると思うのですが、防災マップから読み取れないので教えてください。

また、ハザードマップでは、小中学校や公民館が避難所となっていますが、電気が途絶えると全てのインフラが動かなくなることを懸念しています。自家発電設備は無いと思いますので、避難場所として安全なインフラが完備されているのか気になります。

千葉県の場合、今後30年の間に85%の確率でマグニチュード7の地震が来ると言われているのに、大震災から5年が経過して住民の意識も低下していると思われれます。広報ながれやまを通じて、何か防災のメッセージを訴えかけてはいかがでしょうか。

A 市

概括的な話を申し上げます。

キッカーマンアリーナ等は4日間の自家発電設備があり、電気が灯るようになっています。また、学校もガスから発電することができ、職員室のパソコン等は使えるように工夫しています。

ガスと電気が同時に途絶えると厳しいのですが、このようにライフラインを守ることで、最小限の市民生活を守るという取り組みを検討しています。

流山市には浄水場が4つあり、浄水施設の耐震化は100%完了しております。水道管の耐震化は50%程度の状況ですが、主要な管路を中心に進めており、あと2、3年で完了する予定です。なお、おおたか浄水場には自家発電装置があり、停電時も24時間運転する機能を持っています。

新築の戸建やマンションの場合は、地震発生時に無理に避難所に逃げるのではなく、ご自宅に留まるほうが安全な場合がありますので、ご自宅に何日間か留まれる態勢を検討いただければと思います。

Q 市民

江戸川台駅前のロータリーを利用しますが、小さな子供や乳幼児の送り迎えで10分ほど停車する場所がありません。車が5台から10台ほど停車できるスペースがあればと思います。

A 市

江戸川台駅西口のロータリーは、車3台分の道幅がありますので、

車を降りてはいけませんが停車することは可能です。

専用の停車スペースを設けると長時間駐車してしまう方が多くいらっしゃいます。必要な方に利用いただくためには、今の形をとらせていただきたいと思います。

流山おおたかの森駅西口のロータリーは現在工事中ですが、年内には現在の3倍の面積を確保して、今より倍くらいの停車スペースを設けたいと思います。

Q 市民

区画整理地は歩道が広くて通勤・通学に便利ですが、特に朝・晩は自転車が多く、車道ではなく歩道を走っています。道幅の広い区間は自転車の通行帯を整備してもらえませんか。

A 市

広報ながれやまに、自転車の賠償責任が高額になっているという事例を出し、車の保険に付随した自転車保険への加入を検討いただきたいという旨の記事を掲載しました。

また、自転車の通行帯を整備する件は、自転車活用推進法の成立に伴い、県も全体的な計画を見直しておりますので、それらを確認しながら考えていきたいと思います。

Q 市民

流山周辺は放射能のホットスポットと言われて7～8年が経過しました。現在、放射能対策はどのようになっていますか？

次に、小中学校の給食について放射能の検査を行っていると思いますが、日本は世界よりも放射能の基準が甘いと思います。また、給食には無肥料・無農薬の野菜を使ってほしいです。子供たちが毎日食べることなので、月1回でも検討いただけたらと思います。流山市にもそのような農家がたくさんありますので、地産地消にもつながると思います。

A 市

給食の放射能検査は引き続き実施しております。

また、日本の基準が甘いという点には様々な見解がありますが、様々な情報をみながら検討させていただきたいと思います。

地産地消については、給食のお米は流山産のお米を使っており、野菜もなるべく使おうということで全学校に依頼したところでした。

無肥料・無農薬の野菜は素晴らしいと思います。ただ、給食には予算があります。1か月に1度でもというご要望ですが、児童・生徒15,000人の話ですので、貴重なご意見として承ります。

国の放射能検査の基準を見直すということでしたらわかりませんが、市が独自の基準を設けるにはその根拠が十分では無く、非常に難しいです。

1万人を超える給食を作るには、大量の、ほぼ同形状の材料が必要となります。無肥料・無農薬の野菜は、現時点では学校給食に使えるような状況ではありませんが、模索はしていきたいと思います。

Q 市民

昨年12月のタウンミーティングで、過大規模校の課題について研究して、どのような対応を行うのか後日説明させていただきたいと伝えました。

具体的には、特別教室や運動場を確保していただきたい、また専門家の方を入れて効果的な学校運営をしていただきたいと申しました。その後、どのような対応をしているのか教えてください。

A 市

過大規模校の運動場や特別教室については、児童生徒に見合う数や面積の確保を検討しています。現在は用地確保中ですので具体的な広さは申し上げられませんが、特色ある教育、管理職のマネジメント、1クラスに2名の教員採用などと合わせて進め、人事配置に関しては県の教育委員会に強く要望していきます。

子どもの安全対策は言うまでもありませんが、地域、学校、教育委員会と連携しながら対策に努めてまいります。

次に、プールの指導について、中学校は必ず必要という規定ではありませんが、小学校は年間10時間を下回ってはならないと定められています。9月まで期間を延長するなど、気温が20度、25度以上

のときは時間を確保できればと考えています。

理科室の実験は一般の教室ではできませんので、特別教室を少しずつ増やすという考えは持っています。様々な課題を挙げていただきましたが、学校と一緒に考えながら、場合によっては外部の講師を招へいして指導を仰ぎたいと考えています。

Q 市民

小山小学校は今から10年程前に移転しましたが、当初4階建ての予定が2階建てになり、あげくの果てに4階建てへと増築されました。おたかの森小中学校も増築され、この夏にようやく冷房が入ると聞いていますし、窓を開けると砂埃が入ったり、音が出たりして、地域住民から苦情が出るという話です。新設小学校は、小山小学校やおたかの森小中学校の教訓を生かして、地域住民との連携をとり、苦情の無いように建設を進めていただきたいと思います。

次に、おたかの森駅北口の新しい交流施設には、多目的ホールが514席できると聞いています。小中学校には1,000人近い生徒がいるのですから、是非そこでコンサートを開催してください。ただ500席では足りないので、保護者を含めて最低でも1,000席、文化会館のホールまでとは言いませんが、それに近い数の座席や立ち見スペースを検討いただければと思います。

A 市

おたかの森駅北口の多目的ホールは、今年の晩秋にはほぼ内装が完了し、ピアノの選定や音響の確認を行う段階に入ります。流山市は文化会館に820席、今回のホールに506席、生涯学習センターに300席を確保していますが、これ以上大きなホールを作ると平日に席が埋まりませんので、この規模で進めたいと思います。

なお、キッコーマンアリーナの体育館も多少は音響に配慮しており2,500人程度は入りますので、必要な会場規模や求められる音響に応じて、最適な環境で開催していきたいと思います。

次に、当時の小山小学校は、児童数209名と教室が広く感じるほどでしたが、その後急激に増加して、ご指摘の状況になっています。新しい学校の建設にあたっては、砂埃や音の苦情等が出ないように配慮

したいと思います。

小学校の建設には国庫負担金が下りますが、その金額は開校から3年後の児童数に基づき算定されます。流山市の場合はその後も児童数が増え続けますのでなかなか事業を遂行できない状況ですが、ご指摘については様々な取り組みの中で生かしていきたいと思います。

Q 市民

関西では大雨が続いており、岡山県の倉敷が大水害を受けました。倉敷も流山も、これまで大きな水害が無かった地域です。

ハザードマップはありますが、流山市は何が弱点であり、どのように対策すべきか、もう一度見直すべきではありませんか。我々住民はあまり心配していない状況ですが、行政においてはそうあってはなりません。初心に帰って防災に強いまちづくりをしてほしいです。

次に、市野谷の森の県立公園の話がありましたが、この話が進んでいるのか教えてください。

A 市

東武線沿線に新たにお住まいの方々が、学校区を単位に避難マニュアルを作成されています。備えあれば憂いなし、今まで考えられないようなことが繰り返し起こっていますので、防災計画や、地域ごとの避難所マニュアル等、きちんと整備していきます。

また、流山市のハザードマップ上では、洪水についても地震についても江戸川沿いが要注意地域です。例えば、江戸川が氾濫した場合、あるいは堤防が決壊した場合は、水深2mの被害が出ると公表されています。万一の際、どこに避難するのかを地域でよく考えていただくとともに、流山市においても啓発していきたいと考えます。

次に、市野谷の森公園は、面積が約18.5ヘクタール、両脇の近隣公園を合わせると24ヘクタール近くになる大きな公園です。現在、流山警察署の脇に修景池を整備しておりますが、オオタカが営巣するため工事期間が限られており、池については今年度中、観察施設や広場等については概ね3年から5年の間に開放される予定です。

ただ、市としては部分的な開放をしていただきたいたいということで、千葉県知事に要望しています。今しばらくお待ちいただければと思い

ます。

Q 市民

井崎市長が平成22年に発行された「ニッポンが流山になる日」を是非皆さんに読んでいただければと思います。ただ、絵に描いた餅にならないようお願いしたい。

次に、タウンミーティングの時間が短すぎます。市民の「生の声を聴く」ということですが、言っていることとやっていることが違います。石原副市長や部長も経営者です。よく考えてください。

防災危機管理課の会議を傍聴しましたが、これじゃいかんなと思いました。訓練のための訓練ではないですか。一般市民でも最低限できることをやる、そういうことを訓練してほしいと思います。

最後に、非常の放送が3つありました。井崎市長、第1段階、第2段階、第3段階をそれぞれ教えてください。

A 市

タウンミーティングは、1時間半の中で時間が余るときもあれば、本日のように少しオーバーするときもありますが、概ね対応できていると思いますし、他の方からのご意見も受けていません。1時間半という時間に固執するつもりはありませんが、現在のところは継続していこうと考えています。

最後の1点については、ご質問の意図がわかりかねますので、後ほど伺えればと思います。